



整備状況の紹介：第二体育館竣工

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学岩見沢分校 公開日: 2017-07-07 キーワード: 作成者: 桑山, 弥壽男 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9058

整備状況の紹介

第二体育館竣工

葉山 弥寿男

待望久しかった第二体育館が、これまでの体育館に隣接して昭和59年7月20日竣工し、28日にはささやかながら祝賀会も開催された。鉄骨造り1階建て、面積 380m^2 の体育館（体育室の他、更衣室、器具室、準備室等を含む）は、決して広くはないが、これまでの体育館（ $1,060\text{m}^2$ ）の過密ぶりを考えれば、ようやく授業、課外活動ともに、よりゆとりある使用ができるものと期待されている。

今回の第二体育館建設に当たっての目標は、授業関係では「身体表現活動Ⅰ・Ⅱ」の他に、「体操」「ダンス」「剣道」および「柔道」等に使用できること、課外活動関係では卓球、剣道、柔道および空手の各部も使用しうるように、すなわち、これまでの体育館とあわせより効果的に教育・研究をおこなうとともに、課外活動の充実を図ろうとしたものである。

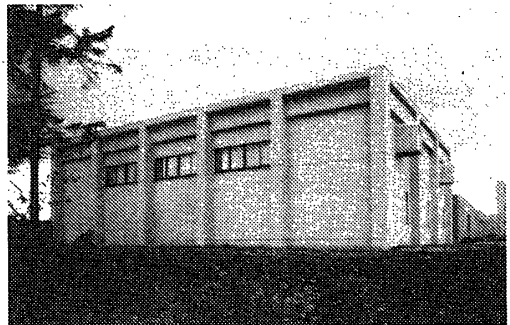
そのための設備について、特記すべきことは、他分枝に例のない、身体表現活動のための鏡（ $4,770 \times 1,508\text{mm}$ ）、ダンスバーを設備したことであり、また、オーディオ・ビデオ装置およびシンセサイザーはすべて可搬式とし、ビデオについては撮影後ただちにプレイバックして、その場で大型画面のモニターテレビで分析できるようにしたことである。さらに、電動暗幕装置により完全遮光できるので、将来は電動昇降式スポットライトを設備することで身体表現活動の教育・研究の内容をより豊かなものにしていく方途も考えうる。

音響設備に関しては、従来の体育館の場合、授業用または行事用としてそれぞれ別個の設備をするかあるいは片方のみであることが多かったが、この第二体育館では、可搬式のシンセサイザーおよびオーディオ装置を導入して、体育室、準備室いずれでもコントロールできる方式としたので、広い用途が期待できることとなった。さらに前記のビデオ装置と合わせると授業、行事、課外活動での活用範囲は一層大きなものになるだろう。また、準備室（ 14.3m^2 ）では体育室でおこなうすべての授業の準備ができる他、体育室との境には強化ガラスの固定窓もつけたので、調整室的な役割りをも果たすことができる。

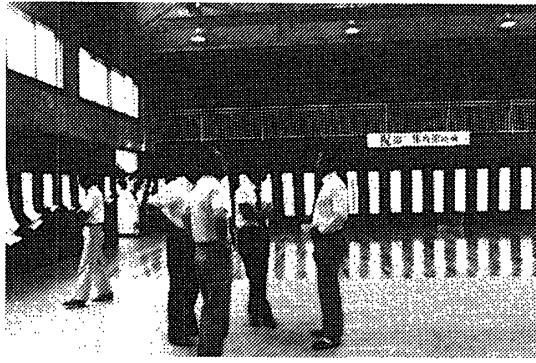
これらの他の設備としては、吊輪、低鉄棒（4欄）、柔道畳（50畳）があり、とくに柔道畳については、畳寄せ枠により必要に応じて正式試合場を直ちに組立てることができる。

以上のような諸設備を活用することで、今まで以上の教育・研究効果と課外活動の充実が期待されている。

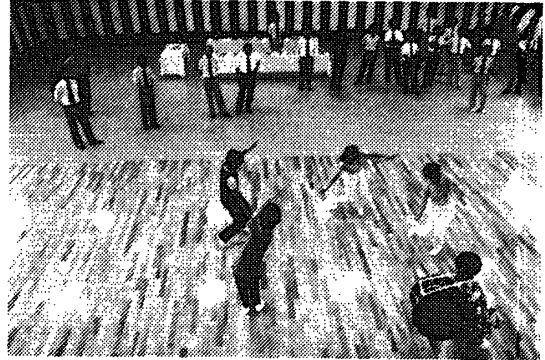
（本分枝 教授 常務委員長）



第二体育館外観



落成披露



祝賀踊り初め

